



武陽食品株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル
Tel. 03-3211-4831 Fax. 03-3211-6004

『武陽月報』は、武陽食品株式会社と株式会社J-オイルミルズが、酪農家・肉牛農家の皆様に役立つ情報をお届けするニュースレターです。

謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

本年も武陽月報をよろしくお願ひ申し上げます。

10月生乳生産前年同月比3.0%増 ALIC

独立行政法人農畜産業振興機構(ALIC)は、令和3年10月の全国の生乳生産量は、63万651トン(前年同月比3.0%増)と、前年を上回って推移したと発表した。地域別には、北海道が35万8,648トン(同3.9%増)と前年同月をやや上回った。都府県についても27万2,003トン(同1.8%増)と増加傾向が継続している。東北地域が減少傾向で推移しているものの、関東、東山、東海、九州地域を中心に都府県全体での生産量が増加している。

加工補給金等すべて据え置きで答申 農水省

農水省は、食料・農業・農村政策審議会畜産部会を開催し、2022年度畜産物価格などを諮問した。同部会では、加工原料乳生産者補給金1キロ当たり8円26銭、集送乳調整金2円59銭、総交付対象数量345万トンのほか、食肉価格も全て据え置きで設定し、諮問案通り答申したと発表した。

補給金は配合飼料価格の高騰で飼料費が増加した一方、初妊牛価格(乳牛償却費)の下落や、子牛など副産物収入の増加、1頭当たり乳量の増加などで相殺されたとした。集送乳調整金は燃料価格の高騰で輸送費が増加したが、加工原料乳の集送乳量が増加したため、据え置きとなった。

総交付対象数量は乳製品向け生乳の推定消費量

361万トンから、カレントアクセス輸入量14万トンと、TPP・日欧EPAの関税割当数量2万トンを差し引き、345万トンに設定した。2022年度の乳製品消費量については、生乳生産量と牛乳等向け処理量が前年を上回るものの、業務用需要の一定の回復を見込んでもコロナ前(2019年度)の水準を下回ると予測した。

21/22年度乳価過去最高更新 NZ

ニュージーランド(NZ)の大手乳業会社フォンテラは、2021/22年度(21年6月~22年5月)支払い乳価を乳固形分1キロ当たり8.40~9.00NZドル(約639~684円)に引き上げると発表した。国際需要が好調にもかかわらず、世界の主要酪農国の生乳生産が伸び悩み、乳製品価格が急騰しているのが要因。これまでの過去最高は13/14年度(13年6月~14年5月)の8.40ドルだった。

同社は10月末に乳価値上げを発表したばかりだが、わずか1ヵ月余りで再度の引き上げに踏み切った。同社によると、NZと豪州は悪天候、米国とEUは飼料コストの高騰などが影響して世界的に供給量が不足し、最大の乳製品輸入国である中国の引き合いは和らいでいるものの、世界全体で見ると需要は依然として強いとしている。短・中期的に、こうした状況が続くと見通している。

飼料のご用命は

武陽食品株式会社

飼料部宮城営業所 飼料部福島営業所

東北第一営業所山形出張所 担当

2021年9月乳製品輸出堅調に推移 米国

米国農務省経済調査局(USDA/ERS)は、2021年9月の乳製品輸出は、港湾の混乱など物流面の課題がある一方で、世界的な需要の高まりを背景に堅調に推移したと発表した。世界的に乳製品価格が高くなっていること、またバターやチーズといった付加価値の高い製品の輸出が増加していることで、輸出量、輸出額ともに高い水準となった。

品目別には、チーズの輸出量は、3万4,100トン(前年同月比19.9%増)と米国産チーズに対する世界的な需要を背景に大きく増加した。バターは、3,100トン(同107.0%増)と10カ月連続で前年同月を上回った。一方で、ホエイの輸出量は、8月が前年同月比17.3%減とかなり減少したのに続き、9月も前年同月並と伸び悩んだ。これについては、主要輸出先である中国で、豚肉価格急落により飼養頭数が減少し、飼料用ホエイの需要が減少していることも一因と分析している。

10月牛肉生産前年同月比2.9%減 ALIC

独立行政法人農畜産業振興機構(ALIC)は、令和3年10月の牛肉生産量は、2万8,581トン(前年

同月比2.9%減)と前年同月をわずかに下回ったと発表した。品種別には、和牛は1万3,431トン(同5.3%減)、乳用種は7,490トン(同3.5%減)と、ともに前年同月をやや下回った。交雑種は7,199トン(同2.8%増)と前年同月をわずかに上回った。

過去5カ年の10月の平均生産量との比較では、0.7%増とわずかに上回る結果となった。

10月牛肉輸入前年同月8.3%増 ALIC

独立行政法人農畜産業振興機構(ALIC)は、令和3年10月の牛肉輸入量は、5万5,203トン(前年同月比8.3%増)と前年同月をかなりの程度上回ったと発表した。冷蔵品は、米国産が増加したものの、豪州産が現地価格の高騰などにより減少したことから、2万488トン(前年同月比4.1%減)と前年同月をやや下回った。冷凍品は、米国産が現地価格の高騰などにより減少したものの、他国産の輸入量が増加したことから、3万4,659トン(同17.2%増)と前年同月を大幅に上回った。

過去5カ年の10月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は7.1%減とかなりの程度下回った一方、冷凍品は31.5%増と大幅に上回る結果となった。

J-オイルミルズ

ファイバーフィード

乳用牛・肉用牛飼育用配合飼料

ファイバーフィードは、大豆皮を主原料とし、ペレット化した混合飼料です。大豆皮はND F含量が高いにもかかわらず、リグニン含量が低いので消化性が高く、高エネルギーです。高繊維、高エネルギーの原料である大豆皮をふんだんに使用した、ファイバーフィードはJ-オイルミルズにしかない、独自の飼料です。

夏場の飼料給与には、粗飼料の不足を補い、第一胃内の発酵の安定させる、ファイバーフィードをお勧めします。



成分	原物中	乾物中
粗たん白質	14.0%前後	16.0%前後
粗脂肪	3.0%前後	3.4%前後
粗繊維	23.0%前後	26.4%前後
粗灰分	7.0%前後	8.0%前後
カルシウム	0.40%前後	0.40%前後
りん	0.15%前後	0.17%前後
TDN	65.0%前後	74.7%前後